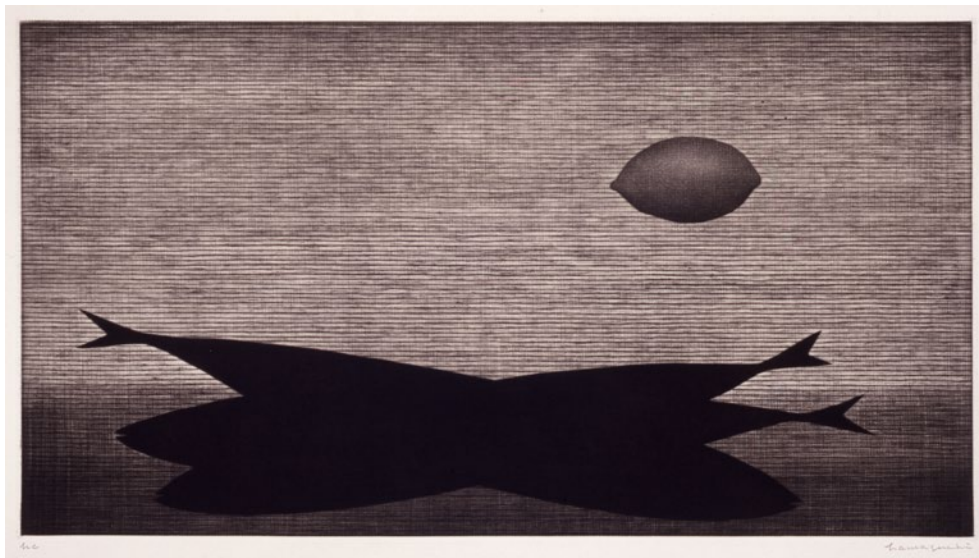


新しい南画の世界

— 浜口陽三と後藤理絵、重野克明、染谷悠子、西久松綾、吉増剛造 —



浜口陽三 「魚とレモン」 1958年 26.5×48.8cm メノチント

江戸時代、17世紀半ばに生まれた南画は、昭和前期まで文化の一大潮流でした。

浜口陽三の銅版画作品にも南画の影響があります。

この展覧会では、こころみに現代の中に南画をさがします。

美術評論家の洲之内徹は、「浜口陽三の仕事の根底には宋元写生画の構図が横たわっている」と言う。宋と元の写生画とは南画のことである。陽三の父君の第十代儀兵衛は、小室翠雲に師事して南画を学んだ。さらに数代前の濱口灌圃は、紀州の南画家の野呂介石の弟子だった。陽三と南画の世界との親和性は、浜口家の伝統である。詩と書と画、その三つを表現するのが正統的な南画家=文人画家だが、現在、その系譜に連なる作家はなかなか探せない。

しかし、南画の伝統を意識しながら、新しい表現を模索する現代美術家や詩人、書家は存在し、活発な活動を続けている。

そうした南画のスピリットに照応しあう現代の作家たちの作品を展示することで、「新しい南画の世界」を表現したい。

展覧会顧問：林 浩平（詩人、前恵泉女学園大学特任教授）
2017年NHK放送大学「文人精神の系譜—与謝蕪村から吉増剛造まで」

会 期 2025. 7.12 (土) ~ 9.21 (日)

休 館 日 月曜日(ただし 7/21、8/11、9/15 は開館)、
7/22(火)、8/12(火)、9/16(火) は振替休館、
7/13(日) 午後、7/26(土) 午後、8/2(土) 終日 ※イベント開催のため

展 覧 会 タイトル ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 夏の企画展 **新しい南画の世界**
— 浜口陽三と後藤理絵、重野克明、染谷悠子、西久松綾、吉増剛造 —

開館時間 11:00~17:00(土日祝は10:00~)、最終入館16:30
ナイトミュージアム(~20:00) 毎月第3金曜日 7/18、8/15、9/19

入 館 料 大人 600円/大学・高校生 400円/中学生以下無料

主催・会場 ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7

Tel_03-3665-0251 Fax_03-3665-0257

Mail_musee@yamasa.com

アクセス_東京メトロ半蔵門線[水天宮前]3番出口そば
東京メトロ日比谷線[人形町]A2出口徒歩8分
首都高速箱崎IC[浜町出口]または[清洲橋出口]T-CAT駐車場前

<https://www.yamasa.com/musee/>

Artist 参加作家



後藤理絵 『蓮の花』 Lotus flower / 詩誌「妃」掲載・自作詩
2024年 25.7×28.8cm 雁皮薄口、油煙墨、青墨、金箔

後藤 理絵 書家・詩人 GOTO Rie

1966年 栃木県生まれ
1989年 杉野女子大学(現・杉野服飾大学)被服学科 染色・織物専攻卒業
2021年 明治大学大学院 理工学研究科 建築・都市学 総合芸術系修士課程修了

幼少の頃より書に親しみ、中学・高校時代は詩・脚本などを書く。
1990年以降、俳優として映画や舞台に携わる。
2004年 詩集を上梓。以降、国内だけでなくルーマニア詩祭やインドなど海外でも詩や書のパフォーマンスを展開。
2020年 『一と無のあいだ』明治大学生田図書館Gallery ZERO/神奈川

言葉と身体、また書と余白の関係を探りながら
詩と書のあわいに立つ表現を試みている。

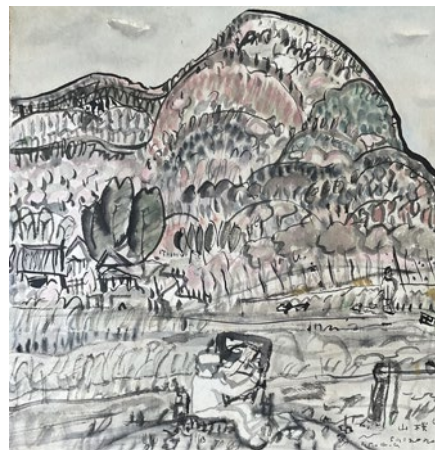
重野 克明 銅版画家 SHIGENO Katsuaki

1975年 千葉県生まれ
2001年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
2003年 東京藝術大学大学院修士課程美術研究科版画専攻修了

〈主な個展〉

2024年 「灯台物語」ア・ライトハウス・カナタ/東京
2023年 「版画家生活二十周年記念 或る未亡人の版画コレクション」
日本橋高島屋美術画廊X/東京
2024年 「はぐれ画家印象派」大阪高島屋ギャラリーNEXT/大阪 他多数

現在 茨城県水戸市で銅版画に主軸を置きながら
水墨画、油彩画、陶芸、手製本を制作している。



重野克明 『山桜』 2025年 49.0×47.0cm 和紙、水墨、顔彩

染谷 悠子 現代美術家 SOMEYA Yuko

1980年 千葉県生まれ
2004年 東京造形大学美術学科絵画専攻卒業
2006年 東京藝術大学大学院修士課程美術研究科版画専攻修了

〈主な個展〉

2014年 「Yuko Someya」Richard Heller Gallery/サンタモニカ
2017年 「花のひらく音を聴く」8/ ART GALLERY/ Tomio Koyama Gallery/東京
2024年 「野花の中にあなたを見る」Tomio Koyama Gallery 天王洲/東京

〈主なグループ展〉

2016年 「生きとし生けるもの」ヴァンジ彫刻庭園美術館/静岡など

パネルにキャンバスや和紙を張り、やわらかな風合いを生かした繊細な筆致と色彩により、身近な風景と生命の根本をからめた独自の世界観を表現している。



染谷悠子 『薄曇りの空のカペラ』 Capella in the Cloudy Sky 2024年 135.0×180.0cm
Chinese ink, water color, acrylic, lithograph ink, on canvas mounted on wood panel
Photo by Kenji Takahashi ©Yuko Someya, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

西久松 綾 美術家 NISHIHISAMATSU Ryo

1989年 京都府生まれ
 2014年 京都造形芸術大学大学院ペインティング領域芸術表現専攻日本画分野修了
 2016年 第3回 続「京都 日本画新展」大賞
 2018年 京都花鳥館賞 最優秀賞
 2018年 第44回春季創画展 春季展賞(同45、49回)
 2023年 京都日本画家協会80周年記念展 優秀賞
 2024年 第9回東山魁夷記念日経日本画大賞展 入選
 2025年 Takashimaya Art re-Axis 2025

小さな生命の煌めきを日々観察し研究しています。川底で積み重なった石の隙間には様々な生き物が住まい、さながら集合住宅の様です。そこで見られる多種多様な生態や生活を観察していると、様々な個性が見えてきます。個と個が共存し、絶妙な緊張感を維持することで大きな調和と穏やかな日々を生み出しています。日々の観察と研究に伝説や民話等様々な物語を組み合わせ、再構築しながら作品にしています。



西久松綾 『壇ノ浦一与一』 2021年 53.0×45.5cm 日本画



吉増剛造 『怪物君』 2015年 54.5×35cm Mixed media on paper
 © Gozo Yoshimasu. Courtesy Take Ninagawa, Tokyo.

吉増 剛造 詩人 YOSHIMASU Gozo

1939年 東京都生まれ
 1963年 慶應義塾大学 文学部国文学科卒業

〈主な個展〉

2023年 「フットノート—吉増剛造による吉増剛造による吉増剛造」前橋文学館/群馬
 2016年 「声ノマ 全身詩人、吉増剛造展」東京国立近代美術館/東京

〈主な出版物〉

2021年 『Voix』思潮社[第1回西脇順三郎賞受賞]
 『詩とは何か』講談社現代新書2641、講談社
 1970年 『黄金詩篇』思潮社[高見順賞]

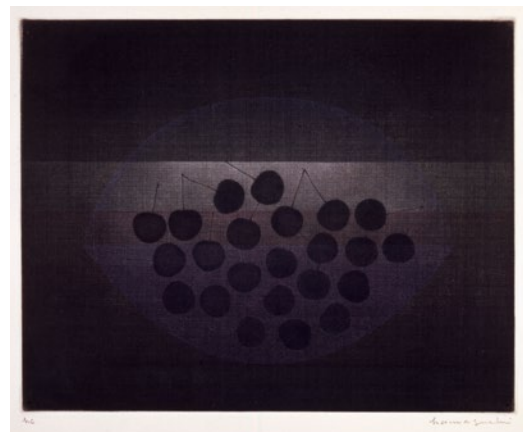
『出発』から『voix』まで22の詩集を発表。

詩というものの概念を変えつつあるとも、写真、映像、表現の領域を縦横無尽に往来し、現代アーティストとも称される。

浜口 陽三 銅版画家 HAMAGUCHI Yozo

1909年 和歌山生まれ。父のヤマサ醤油第十代社長、濱口儀兵衛は、南画の収集家として知られ、小室翠雲に学んで自らも描いた。
 1930年 東京美術学校(現・東京藝術大学)を2年で中退し渡仏。油彩、水彩、版画などを模索。
 1940年 第二次世界大戦の勃発でやむなく帰国。白倉嘉入に墨絵を習う。
 1950年頃 本格的に銅版画に取り組みはじめる。
 1953年 再びパリを制作の拠点とする。
 1955年 カラーメゾチントという新しい技法を開拓。

カラーメゾチントの技法を使った静謐な作品が国際的に評価され、20世紀を代表する銅版画家として活躍した。



浜口陽三 『黒いさくらんぼ』 1962年 19.6×24.6cm カラーメゾチント

Events イベント

詳細はHPにて

- 1 トーク:現代における南画 詩人・林浩平×美術評論家・林道郎 7月26日(土) 15:00~
- 2 吉増剛造氏によるパフォーマンス 8月2日(土) 15:00~ 予約制 定員40人ほど
 (7月15日(火)12:00~電話にて予約受付)
- 3 林浩平×後藤理絵、重野克明、染谷悠子、西久松綾 文人風茶会 7月13日(日)14:00~